

平成29年度 第3回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 平成29年11月22日(水) 18:30～19:26
- 2 会 場 帯広市役所 第5A会議室
- 3 出席委員 西保 俊太郎、杉本 光瞬、阿部 好恵、矢野 充、鳴海 亮、松田 信幸、池田 健一、松本 健春、高倉 美恵子、鈴木 慎一、野原 一行、久保田 博己、藤崎 博人、廣瀬 有紀、金谷 洋子、村上 博子
(以上16名 敬称略)
- 4 事務局 生涯学習部長 草森 紳治、スポーツ振興室長 葛西 克也、生涯学習部企画調整監 森川 芳浩、図書館長 前原 匡宏、スポーツ振興室主幹 河瀬 祐二、生涯学習課長 高橋 靖博、文化課長 渡邊 誠克、百年記念館長 北沢 実、動物園長 柚原 和敏、生涯学習課生涯学習推進係長 島田 猛、生涯学習課係員 岩崎 真実
(以上11名)

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 帯広市教育委員会生涯学習部長 挨拶
- (3) 帯広市社会教育委員長 挨拶
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 議事要旨

(1) 第59回全国社会教育研究大会北海道大会参加報告

- ・ 会議名：第59回全国社会教育研究大会北海道大会
- ・ 期 日：平成29年9月11日(月)～13日(水)
※ 9月12日(火)～13日(水)の2日間参加
- ・ 場 所：札幌コンベンションセンター
- ・ 出席者：松本 委員長、高倉 副委員長、池田 委員、(事務局：岩崎 係員)
池田 委員より参加報告。

(2) 新しい帯広市教育基本計画の策定について

事務局より説明。

○ 委員

平成27年度から平成28年度にかけて、社会教育委員会議において研究協議テーマを設けて議論し、昨年度3月に議論の結果を報告書としてまとめて教育委員会へ提出した。その報告書提出までに、委員の皆さんより様々なご意見をいただいているので、その内容と教育基本計画の内容をリンクさせながら、今後さらに議論を深めていきたい。

教育基本計画に関連し多くの参考資料があるが、あまり堅苦しい会議にはしたくないと思っている。委員の皆さんがそれぞれの分野で活動している中で、「帯広市の教育に、これがあ

ったら良い、これが欠けているのではないか」など、日頃の気付きから議論していけたらと思っている。

現在の計画から新しく策定する計画が大きく変わることは考えにくい。現在の計画で何ができて、何ができていないかを考えていけたらと思う。

○ 委員

自分は学校教育の現状をしっかりと伝えていくことが役割だと思っている。小学校の新しい指導要領が平成32年度より開始される予定であるが、現在すでに教員の仕事があふれている状態である。今後は何を削っていくかという視点も必要であると思う。しかし、国や北海道からは次々に事業がおりにくる。これに対応できるようにしていかなければならない。

○ 委員

今までの10年間とこれからの10年間は、かなり違ったものになると思う。子ども達に進路指導をするなかでも、これから無くなっていく仕事についても考えさせるようにしている。これからの計画を考える上で、今後10年で社会はどのように変化していくのか見据えていく必要がある。

○ 委員

近年の高等教育には、地域にどう根付いていくかということが求められている。同時に地域でのあり方についても問われていくことになるだろうと思う。まずは、今後の教育基本計画の動きについて勉強していきたい。

○ 委員

10年の間では、社会は大きく変わっていく。そうした中で何かの取組みを始めたいときに「教育基本計画に書かれていないから実施できない」となってしまうのは、前に進めない。

“認定こども園”がその例の一つ。“認定こども園”は国からおりにきて、市で実施することになる取組みだが、市では予算がないため、実施するには数年後まで待たなければならない。

計画が10年というスパンで策定されることに疑問を持っている。

○ 委員

地域のことを考えると、公的なサービスだけではなく、ボランティアも含めたインフォーマルなものにも対応していかなければならないと感じている。地域での高齢化が進んでいる状況もあるので、是非若い方の力も出てくるような形にしていきたい。これから委員のみなさんと一緒に頑張っていきたい。

○ 委員

進め方について、「グループワーク」を取り入れたことは良いと思う。少人数に分けることで、話が深まっていくのではないだろうか。今後の会議に期待したい。

○ 委員

新しい計画を策定する上で重要となるのは「今までどうだったのか」という検証であると思う。これからの会議では、まず「現在の計画の課題の抽出」をしていく作業となるが、ここをしっかりとっていくことで、次につながると思っている。

○ 委員

今回の会議に参加して、多くの資料が手元にあるが、これを全て網羅することは難しいので、委員はそれぞれが発言しやすい分野に着目したら良いと思う。自分は、今後10年間の市民の健康観の変化と、帯広市を取り巻くスポーツ環境の変化について着目している。また、2020年には東京オリンピックが開催されるとともに、帯広市では新総合体育館が完成する予定であり、そういったことをきっかけにまた住民の意識は変わってくると思っている。そういった視点で発言していけたらと考えている。

○ 委員

自分は、「教える」という教育よりも、学習という視点で参加したいと思っている。この会議にもそういった人物がいても良いと思う。これから出来る限り会議に参加して発言していきたい。

○ 委員

今月（平成29年11月11日）に「中学生のメッセージ」の発表が行われたが、子どもは昔も今も大きく変わらないという印象を受けた。この子ども達の声を汲み取っていくのが大人の役割であると思っている。気付きを多く持って会議に臨みたい。

○ 委員

経済格差が学力の格差と比例しているように感じている。この帯広市の計画も、様々な経済環境の中にいる子どもをはじめ、全ての市民に焦点を当てた計画にしていけたらと思っている。

○ 委員

近年、働く母親がととも増えていることから、家庭教育学級の参加者がかなり減っている。各家庭で、親が子どもとゆっくり関わる時間も、ここ10年の間で減少してきていると感じている。母親の年代も変化しており、短期間で母親の考え方も変わってきている。家庭教育についての課題が難しくなっており、今後どうしていけばよいかと考えているところである。

○ 委員

これからのキーワードは格差であると感じている。市内で教育に関する様々な施策が実施されているが、その取組みが全体の住民に行き渡って欲しいと思っている。

○ 委員

就労支援の仕事をしており、訪れる若者に「10年後何をしているのか」と問うてきたが、自分が帯広市の教育の10年後を考えるととは思わなかった。時代の流れが非常に速く、未来を見据えることがとても難しいと感じている。しかし、ここにいる委員の皆さんには、今まで培ってきたことがたくさんあると思う。その意見を伺いながら、今後の議論が最終的にどのような形になるのか楽しみにしている。

以上